

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 玉川大学 教育学部 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒194-8610  
東京都町田市玉川学園6-1-1  
E-mail makoto@edu.tamagawa.ac.jp  
Website http://www.tamagawa.ac.jp/education/  
幼児児童生徒数 男子 595名 女子 885名 合計 1480名  
幼児・児童・生徒の年齢 18歳～25歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本学は、小原國芳の提唱した全人教育を建学の理念として、ESDを平和で持続可能な社会の担い手を育てる「人づくり」の教育活動と捉え、ESDの実践を通して平和、持続可能性、地球市民性、国際理解といったユネスコの価値教育の理念を効果的に児童生徒に伝えてゆける教師力の育成を目標としている。

具体的には、教員研修、教師教育、ユネスコスクール加盟支援、ユネスコクラブ(課外活動)を柱に、①「ユネスコスクール玉川研修会」、②「ESD実践学習プログラム」、③ユネスコスクール加盟希望校への支援活動、④「第4回ユネスコクラブ全国サミット」、を中心とする諸活動を実施した。

### ① 教員研修に係わる活動

ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)加盟大学として、「平成29年度日本ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、首都圏におけるユネスコスクールの教員のESD理解の深化とESD実践指導力の向上を目的とした「ユネスコスクール玉川研修会：ESDと地球市民教育」を12月16日に実施した。71名が参加し、ESDの異学校種間連携への理解を深めた。

## ② 教師教育に係わる教育

学校現場で ESD を効果的に教えることのできる教師力の育成を目標に掲げ、学部等改革推進制度として「ESD 実践学習プログラム」を実施した。教師志望の学生 20 名を選抜し、①「ESD 研修セミナー」(5 月 31 日)、②国連大学・JICA 地球ひろば訪問 (7 月 28 日)、ESD 活動支援センターのワークショップ (7 月 31 日)、町田市立町田第五小学校でのボランティア活動 (10 月、11 月)、鳥羽スタディツアー (2 月 14 日～16 日)、ESD ワークシート作成を行った。

## ③ ユネスコスクール加盟支援に係わる活動

ASPUnevNet 加盟大学として、以下のユネスコスクール加盟希望校 (チャレンジ期間中) に対して、教師研修会を含む学校訪問とユネスコスクール加盟申請書の添削および評価等を行った: 成蹊学園、東京都立山崎高等学校、大妻中野中学校・高等学校、目黒区立上目黒小学校、町田市立小山田小学校、名古屋市立左京山中学校 (加盟申請準備中)、町田市立町田第五小学校 (加盟申請準備中)、東京都市大学等々力中学高等学校 (ユネスコスクール加盟校)。また創価大学にて ESD 研修会を行い、ASPUnevNet への参加を支援した。

## ④ ユネスコクラブの活動

玉川大学ユネスコクラブは 2018 年 2 月にオーストリア・ユネスコ国内委員会およびウィーンのユネスコスクール「虹の学校」(Regenbogenvolksschule) を訪問し、今後定期的な交流と情報交換を行っていくことで合意した。また 2017 年 12 月 17 日に玉川大学、慶應義塾大学、ICU、奈良教育大学、京都外国語大学、広島大学、安田女子大学の 7 大学ユネスコクラブによる「第 4 回ユネスコクラブ全国サミット」を玉川大学にて開催し、ユネスコスクールの現場において国連の持続可能な開発目標 (SDGs) に謳われている諸課題を児童生徒に伝えてゆくための具体的なワークショップ指導案を共同で作成した。



① 「ユネスコスクール玉川研修会」パネルディスカッション



② 「ESD 実践学習プログラム」鳥羽スタディツアー



③ 町田市立町田第五小学校  
への支援



④ 玉川大学ユネスコクラブ  
とウィーンのユネスコ  
スクール「虹の学校」の交流  
会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(心の教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入:文化の多様性を尊重し、対立を和解に変容させる力)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述:教職課程)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

日本ユネスコ国内委員会（2017）「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育」  
UNESCO（2014）“Global Citizenship Education – Preparing learners for the challenges of the 21<sup>st</sup> century”  
UNESCO（2015）“Global Citizenship Education – Topics and Learning Objectives”  
UNESCO（2016）“Schools in Action: Global Citizens for Sustainable Development – A Guide for Teachers”  
UNESCO（2016）“Schools in Action: Global Citizens for Sustainable Development – A Guide for Students”  
UNESCO（2017）“Writing Peace”  
村田翼夫（2016）「多文化社会に応える地球市民教育：日本・北米・ASEAN・EU のケース」ミネルヴァ書房  
小林亮（2014）「ユネスコスクール：地球市民教育の理念と実践」明石書店

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

玉川大学教育学部は、教師養成校としての性格を中心に据えており、またユネスコスクール加盟校であると同時に、ユネスコスクール支援大学間ネットワークの加盟大学でもある。これに基づき、学内的には教育学部生にユネスコスクールについての知見を伝え、また ESD を教えることのできる教師力の向上に努めている。ただ、学部のカリキュラム・ポリシーにまだユネスコスクールと ESD についての記載がなされていないので、今後、学部のカリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーの中にどのように位置づけていくかが大きな課題である。学外的には、「神奈川県ユネスコスクール連絡協議会」をはじめ、首都圏のユネスコスクールへの支援を主に行っているが、総合学習や道徳科等での実際の授業づくりに踏み込んだ ESD 指導マニュアルを作成する方向で検討を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育学部内に、ユネスコスクール・プロジェクトチームを結成し、「ユネスコスクール研修会」「ESD 実践学習プログラム」その他の学部イベントに関する計画と運営を行っている。また学部予算にユネスコスクール運営費を費目として計上している。今後は、学内の他学部および初等・中等学校（K12）にどのようにユネスコスクールおよび ESD の理念を普及させ、ESD 推進に向けた玉川学園全体としてのホールスクール体制をどのように構築していくかが課題である。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年実施している「ユネスコスクール研修会」にて、参加者に評価シートに記載をお願いしている。ユネスコスクールでの教師力の向上に関して概ね肯定的な評価を受けているが、地域コミュニティとの連携がまだ不十分であること、異学校種間の連携モデルをより明確に提示する必要があること等の指摘があるので、これらの要望をふまえ、より学校現場のニーズに対応したユネスコスクール支援プログラムの拡充を図ってゆきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- 1) ASPUnivNet のホームページとメーリングリスト、ユネスコスクール公式ウェブサイト、神奈川県ユネスコスクール連絡協議会のメーリングリスト、日本ユネスコ協会連盟ホームページおよび教育委員会ホームページ等を活用して、本学の ESD 推進拠点としての活動成果について広報を行っている。
- 2) 玉川学園の学内ホームページへの関連記事の連載を行い、ESD 関連行事での話題提供、イベント情報の提供、近隣のユネスコスクールへの広報、地域ユネスコ協会など関連団体への広報出張などを実施している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本学は、ユネスコスクール支援大学間ネットワークの一員として、他の加盟大学および ACCU との情報共有と連携を恒常的に行っている。また神奈川県ユネスコスクール連絡協議会の加盟校として、神奈川県を中心とするユネスコスクールの地域ネットワークを活用し、交流活動や協同プロジェクトの開発に努めている。さらにユネスコクラブは日本ユネスコ協会連盟の構成団体会員として、民間ユネスコ運動における他のユネスコ協会・クラブとの連携を（ユネスコクラブ全国サミットをはじめとして）進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項 2-4 に対応

「文明間の対話」の観点から、ユネスコクラブが毎年実施している海外スタディツアーで訪問したユネスコスクール（約 20 校）とメールでのネットワークを構築し、情報交換に努めると同時に、ESD と GCED との統合に向けた協同プロジェクトの創出に向けた話し合いを進めている。ユネスコ・バンコク事務所、APCEIU 等が開催するワークショップに定期的に参加し、これら海外のユネスコスクールとの連携の維持と発展に努めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

平成 29 年度ははじめて教育学部の教師教育プログラムとして「ESD 実践学習プログラム」を設立し、教師教育の課題として ESD が重要な今日的意義を有していることについて、教員間、学生間の認知レベルをかなり顕著に高めることができた。1) ESD を中心としたユネスコの価値教育に関する教材作成をいかに進めていくか、2) ESD 教師教育プログラムを学部カリキュラムの中でどのように単位化していくか、が今後の課題として残されている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1) 平成 30 年度日本ユネスコパートナーシップ事業として、教育学部は 12 月 15 日に、神奈川県ユネスコスクール連絡協議会との共催で「第 4 回ユネスコスクール神奈川県大会」を開催する計画である。ここでは ESD と GCED に関する内外の専門家を招いてパネルディスカッションおよびワークショップを行い、SDGs の開発目標をふまえながら、ユネスコスクールの教育実践において ESD の視点と GCED の視点をどのように交わらせ、統合していくかを主眼に実践的議論を深めてゆきたい。

2) 教師教育プログラムとしては、「ESD の教材開発」を目指す学部内共同研究チームを発足させるので、文化の和解、道徳教育、心の教育等の今日的課題状況も視野に入れた全人教育的な ESD 教材開発を学部として進めていく予定である。

3) ユネスコクラブは、「第 5 回ユネスコクラブ全国サミット」を実施する。平成 30 年度はとくに海外のユネスコスクールとの異文化間対話と学び合いのネットワーク形成に関し具体的なロードマップを描くことをめざす。